

76. 解答：d

- a. 正
- b. 正
- c. 正：腫瘍が増大すると壊死を反映し、内部に嚢胞性変化がみられる。
- d. 誤：T2 強調像では高信号を呈することが多い。
- e. 正

77. 解答：c

- a. 誤：副腎静脈から下大静脈内への進展がみられる。
- b. 誤：門脈や肝静脈への進展がみられる。
- c. 正：静脈内進展の頻度は低いと思われる。
- d. 誤：腎静脈や下大静脈への進展がみられる。
- e. 誤：膵内分泌腫瘍の悪性を示唆する所見として脈管浸潤がある。

78. 解答：d

- a. 誤：腎結核の最終的な像で、腎の著明な萎縮と石灰化を来たした状態。T2 強調像にて低信号を呈する。
- b. 誤：hypovascular な腫瘍で、T2 強調像にて低信号を呈する。腫瘍間質に存在するヘモジデリン、出血の影響と考えられる。
- c. 誤：出血を反映し T2 強調像では高信号または低信号を呈する。
- d. 正：T2 強調像では軽度高信号を示す。
- e. 誤：筋成分が主体となり T2 強調像にて低信号を呈する。

79. 解答：c

- a. 正：皮質下の実質から発生したものは外向性に発育するものもある。
- b. 正：4cm 以上の腫瘍は出血のリスク高く、破裂時あるいは予防的に動脈塞栓術が施行される。
- c. 誤：結節性硬化症に血管筋脂肪腫の合併がみられる。
- d. 正
- e. 正

80. 解答：e

- a. 誤：腫瘍は大きい（6cm 以上）。
- b. 誤：3cm 以上のことが多い。
- c. 誤：脂肪の濃度を呈する腫瘍。通常は無症状で US や CT により偶然に発見されること

が多い。

- d. 誤：Cushing 症候群の腺腫は 2cm 以上のことが多い。
- e. 正：原発性アルドステロン症の腺腫は小さなことが多く、画像検査で同定できないマイクローアデノーマが存在する。

以上、解答 76～80 は古谷俊介会員（徳島大学）